

演出：宮本亞門／衣裳デザイン：高田賢三

オペラ『蝶々夫人』 公式写真公開！

驚きと感動の声が続出！2019年ベストオペラの声も
残る日本公演は10月13日(日)よこすか芸術劇場

お得な学生席のチケット当日受付も決定

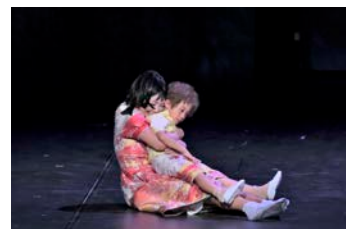
公益財団法人東京二期会は、ザクセン州立歌劇場（ゼンパーオーバー・ドレスデン）とデンマーク王立歌劇場、サンフランシスコ・オペラとの共同制作公演で、ジャコモ・プッチーニ作曲のオペラ『蝶々夫人』を上演しています。演出には宮本亞門、衣裳デザインには高田賢三を迎え、最高のスタッフとキャストで、日本のオペラを世界に発信いたします。

10月3日(木)～6日(日)に上演された東京公演では、宮本亞門による全く新しい演出と高田賢三の繊細で色彩豊かな衣裳に、驚きと感動の声が。最高の演出・衣裳・音楽・歌声が融合し、圧巻のラストでは、会場中からすすり泣きが聞こえました。観劇したお客様からは「涙が止まらなかった」「今年のオペラでNo.1」という感想を多くいただきました。

残る日本での公演は、10月13日(日)よこすか芸術劇場です。その後、ドイツ、デンマーク、アメリカで上演し、再度日本で上演するのは2023年以降です。

また、横須賀での公演をより多くの方に楽しんでいただくために、これまで事前予約が必要だった学生席(2,000円)を、当日も受け付けます。ぜひ貴重な横須賀での公演をぜひお見逃しなく。





<クレジット>

写真提供：公益財団法人東京二期会

撮影：三枝近志

最高のスタッフ、キャストで贈る、新制作の『蝶々夫人』！

東京二期会は、これまでも各国の歌劇場と共同制作によって、世界水準のオペラ公演を日本で実現させてきましたが、本プロダクションは東京でワールド・プレミアを迎えます！そののちに、ドイツ、デンマーク、アメリカでの上演を予定しており、今回の『蝶々夫人』は、まさに“日本が世界に向けて発信するオペラ”であるといえるでしょう。

これからの日本におけるオペラ文化を考える上でも、きわめて重要な意味を持つ本プロダクションを、最高のスタッフ、キャストで臨みます！

演出は、**宮本亞門**。東京二期会とともに『魔笛』（リンツ州立劇場との共同制作）『金閣寺』（フランス国立ラン歌劇場との共同制作）と、最新のテクノロジーを駆使した新感覚の表現方法によってオペラの可能性を拡げ、本場ヨーロッパで高い評価を得る舞台を生み出してきました。ミュージカルはもちろん、ストレートプレイ、歌舞伎とボーダーレスな活躍を続けていますが、近年オペラ演出家としての評価を揺るぎないものとしています。オペラ史上指折りの名作であり、東京二期会でも、三谷礼二、栗山昌良が演出して長年オペラファンに愛されてきた『蝶々夫人』のニュープロダクションにご期待ください！



©上野隆文

指揮は、**アンドレア・バッティストーニ**。世界的に同世代の最も重要な指揮者の一人と評されており、2011年『ナブッコ』で、東京二期会が最初に招聘して以来、ダイナミックかつ格調高い演奏で日本でも多くのファンを獲得。2016年には東京フィルハーモニー交響楽団首席指揮者に就任しました。彼にしか成し得ないプッチーニの音楽を、ぜひご体感ください。

さらに、「ケンゾー(KENZO)」ブランドの創始者であるデザイナー**高田賢三**が衣裳デザインを担当することが決定！高田は2016年にフランス政府からレジオンドヌール勲章シュヴァリエ位を授与された世界的デザイナーです。

その他、装置、照明、映像スタッフにも、宮本亞門と名舞台を作り上げてきた国際色豊かなプランナー陣が顔を揃えました。世界屈指のスタッフが生み出す、新たな『蝶々夫人』をお楽しみに！



世界的評価を得ている2人のディーヴァが競演！日本人が演じる、世界の「マダム・バタフライ」を表現！！

『蝶々夫人』はなんといっても、タイトルロール。今回は、2017年の東京二期会『蝶々夫人』（栗山昌良演出）でもダブルキャストを務めた、**大村博美**と**森谷真理**がふたたび“蝶々さん”を演じます（横須賀公演では森谷が出演）。フランスを拠点に活躍する大村博美は、世界中のオペラハウスで100公演以上同役を歌っており、昨年はプッチーニ・フェスティバルで日本人初の同役のプレミエを務めました。（本年夏も『トスカ』題名役出演予定）

森谷真理は、メトロポリタン歌劇場で『魔笛』夜の女王を務め、高い評価を得て以来、国内外問わず、目覚ましい活躍をみせています。

文字通り、世界を股にかけて活躍する2人のソプラノが、**東京発信の新しい「マダム・バタフライ」像を創造**します！！



大村博美

森谷真理

Photo: Yutaka Nakamura

文化庁委託事業 平成31年度戦略的文化創造推進事業

東京二期会オペラ劇場
ザクセン州立歌劇場（ゼンパーオーバー・ドレスデン）、
デンマーク王立歌劇場、サンフランシスコ・オペラとの
共同制作公演

ジャコモ・プッチーニ作曲

『蝶々夫人』

〈新制作〉

オペラ全3幕 日本語及び英語字幕付原語[イタリア語]上演

2019年10月3日(木)～6日(日)
東京文化会館 大ホール

2019年10月13日(日)
よこすか芸術劇場

●報道関係者様からのお問合せ

東京二期会PR事務局 担当：丸山、古川

TEL：03-4500-2346 FAX：03-5539-4430 MAIL：nikikai@high-light.co.jp

●一般のお客様からのお問合せ 二期会チケットセンター TEL:03-3796-1831



指揮 アンドレア・バッティストーニ Andrea Battistoni (東京フィルハーモニー交響楽団 首席指揮者)

1987年ヴェローナ生まれ。アンドレア・バッティストーニは、国際的に頭角を現している同世代の最も重要な指揮者の一人と評されている。2013年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場の首席客演指揮者、2016年10月東京フィル首席指揮者に就任。

『ナブッコ』、リゴレット（東京二期会）、グランドオペラ共同制作『アイダ』のほか、〈ローマ三部作〉、「展覧会の絵」「春の祭典」等数多くの管弦楽プログラムで東京フィルを指揮。東京フィルとのコンサート形式オペラ『トゥーランドット』（2015年）、『イリス（あやめ）』（2016年）、『メフィストーフェレ』（2018年）で批評家、聴衆の双方から音楽界を牽引するスターとしての評価を確立。同コンビで日本コロムビア株式会社より9枚のCDをリリース。

ミラノ・スカラ座、ヴェネツィア・フェニーチェ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、スウェーデン王立歌劇場、アレナ・ディ・ヴェローナ、バイエルン国立歌劇場、マリインスキー劇場、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、イスラエル・フィル等世界の主要歌劇場・オーケストラと共演を重ねている。2017年には初の著書『マエストロ・バッティストーニのぼくたちのクラシック音楽』を音楽之友社より刊行。

Website <http://www.andreabattistoni.it/>
Facebook <https://www.facebook.com/Andrea-Battistoni-159320417463885/>
Twitter https://twitter.com/A_Battistoni



演出 宮本亞門 Amon Miyamoto

2004年、ニューヨークのオンブロードウェイにてミュージカル『太平洋序曲』を東洋人初の演出家として手がけ、同作はトニー賞の4部門でノミネートされる。ミュージカルのみならず、ストレートプレイ、オペラ、歌舞伎など、ジャンルを越える演出家として、活動の場を国際的に広げている。

東京二期会のオペラ演出としては、モーツァルト×ダ・ポンテの三部作として2002年『フィガロの結婚』（2011、16年再演）、2004年『ドン・ジョヴァンニ』、2006年『コジ・ファン・トゥッテ』（文化庁芸術大賞受賞）を精力的に演出。そして2009年に『ラ・トラヴィアータ』。13年にはオーストリア・リンツ州立歌劇場シーズンオープニングとして自身欧州でのオペラ初となるモーツァルト『魔笛』を演出し、連日満席の大成功を収めた。15年には東京二期会にて同演目のジャパン・プレミアを飾った。北米でのオペラ進出は、2007年米・サンタフェ・オペラにてタン・ドゥン作曲の現代オペラ『TEA: A Mirror of Soul』（アメリカン・プレミア）を演出。

2011年、宮本が初代芸術監督に就任した神奈川芸術劇場KAATの柿落とし公演として、三島由紀原作の舞台『金閣寺』を演出。同年ニューヨーク公演も成功をさせ、その後も再演を重ねた。

その舞台で培った経験をもとに、次は2018年フランス国立ラン歌劇場（ストラスブール、ミュールーズ）において黛敏郎作曲オペラ『金閣寺』を新制作初演した。「宮本亞門の演出は、演劇面における芸術的達成という点でも、公演の成功を完璧なものにした」など絶賛を浴び、19年2月、東京二期会での凱旋公演を行った。

近年の活動としては、2018年9月には日仏友好160周年を記念した「ジャポニスム2018」の一環として、ベルサイユ宮殿オペラハウスにて、皇太子さまとマクロン大統領をゲストに、能×3D映像『幽玄』を上演した。また2019年7月には、初めてのフィギュアスケート演出『氷艶2019~月光かりの如く~』（横浜アリーナ）を手がける。



衣裳デザイン 高田賢三 Kenzo Takada

兵庫県生まれ。1960年第8回装苑賞受賞。1961年文化服装学院デザイン科卒業、1965年に渡仏。

1970年パリ、ギャラリー・ヴィヴィエンヌにブティック「ジャングル・ジャップ」をオープン。初コレクションを発表。パリの伝統的なクチュールに対し、日本人としての感性を駆使した新しい発想のコレクションが評判を呼び、世界的な名声を得る。

その後ブランドを「KENZO」とし、高い評価を受ける。1984年仏政府より国家功労賞「シュヴァリエ・ド・ロルドル・デザール・エ・レトル」芸術文化勲章（シュヴァリエ位）受章。1998年仏政府より国家功労賞「コマンドゥール・ド・ロルドル・デザール・エ・レトル」芸術文化勲章最高位の（コマンドゥール位）受賞。1999年2月、ニューヨークで国連平和賞（タイム・ピース・アワード）の'98年ファッション賞を受賞。

10月パリコレクションを最後に KENZO ブランドを退く。同年紫綬褒章を受章。2004年開催アテネオリンピック日本選手団公式服装をデザイン。パリ市よりパリ市大金賞を受賞。

その後、デザイナー活動及び絵画を手掛けている。絵画展は、フランス、モロッコ、アルゼンチン、ウクライナ、ロシアで開催。又、ドイツにて2008年に開催。

現在は、クリエイションにおける異業種とのコラボレート事業を展開。その他、世界の伝統文化を継承する為の活動をライフワークの1つともしている。2016年 仏政府よりレジオンドヌール勲章「名誉軍団国家勲章」（シュヴァリエ位）を受勲。同年、8月下旬より限定一年間、日本において、セブン&アイ・ホールディングスの社傘下のそごう・西武及びイトーヨーカドーのPBブランド「セット・プルミエ」を展開。2017年12月「夢の回想録」出版。2018年Editions du Chêneより「KENZO TAKADA」を出版。

【横須賀公演】

文化庁委託事業 平成31年度 戦略的文化創造推進事業

東京二期会オペラ劇場

ザクセン州立歌劇場（ゼンパーオーバー・ドレスデン）、デンマーク王立歌劇場、
サンフランシスコ・オペラとの共同制作公演

ジャコモ・プッチーニ

蝶々夫人

オペラ全3幕 日本語及び英語字幕付原語[イタリア語]上演 新制作

2019年10月13日(日)15:00開演(14:15開場)

よこすか芸術劇場

指揮：アンドレア・バッティストーニ 演出：宮本亞門

蝶々夫人	森谷真理
スズキ	藤井麻美
ケート	成田伊美
ピンカートン	樋口達哉
シャープレス	黒田 博
ゴロー	萩原 潤
ヤマドリ	小林由樹
ボンゾ	志村文彦
神宮	香月 健

合唱：二期会合唱団 管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

※やむを得ない事情により出演者等が変更になる場合がございます。

装置：ボリス・クドルチカ 衣裳：高田賢三
照明：マルク・ハインツ 映像：バルテック・マシス
合唱指揮：河原哲也 演出助手：澤田康子 島田彌勒
舞台監督：村田健輔 公演監督：大島幾雄

料金(全席指定・税込)：

S席13,000円 A席11,000円 B席8,000円 C席5,000円 学生席2,000円

※学生席のご予約は二期会チケットセンター電話のみのお取扱いです。

※未就学児入場不可

<チケットご予約・お問合せ>

チケットスペース TEL:03-3234-9999

二期会チケットセンター TEL:03-3796-1831

<プレイガイド>

横須賀芸術劇場電話予約センター046-823-9999

(プレミアム倶楽部会員専用ダイヤル046-823-7999)

横須賀中央駅西口モアーズシティ1階(モアーズストリート)／芸術劇場1階(サービスセンター内)

チケットぴあ0570-02-9999 (Pコード151-419) <http://pia.jp/>

ローソンチケット0570-000-407 (Lコード32580) <http://l-tike.com/>

イープラス<http://eplus.jp/>

主催：文化庁 公益財団法人東京二期会 制作：公益財団法人東京二期会
協力：公益財団法人横須賀芸術文化財団